每月三回（一、十一、廿一日）發行
東京市麹町區内幸町一ノ五上村方
發行編輯印刷人　細迫兼光
勞働農民新聞社
振替東京五九二九〇番
一部代金五錢

號外

熱烈なる歡呼の渦巻の裡に
勞農黨愈々生る
全國の同志鬪爭に奮ひ立ち
今や暗雲低迷の氣全く晴る

待ちに待つた十一月一日が來た。全國の勞働者農民が喜と希望を集中さして居るわが勞農黨結黨大會の開かれる芝協調會館には午前七時半といふにはや勇敢なる警備隊が詰めかけて會場の設備を整へ、入口を固め、腕には白布の青年鬪士の面上には凄いまでの緊張がみなぎつゐる。八時にもなれば既に地方の代議員や傍聽者が續々と詰めかけて來て傍聽者受付、代議員受付は轉手古舞で必死の活動を續ける。本部の山花委員が自ら代議員受付けに出動して病苦をおし包んで奮鬪してゐる有樣は悲壯を極めたものであつた。

代議員の到着は益々多くなり大阪の二十數名を筆頭に一と固まりに殺到し傍聽席は既にギツシリ身動きも出來ない有樣である。千葉の十八名の代議員を殿として代議員がそろつたのは十時を少し過ぎた頃であつた。開會を告げるベルは會場に鳴りひびき人々をいやが上にも緊張させる。

嚴に細迫書記長
開會を宣言
全代議員頗る緊張す

午前十時三十分開會劈頭ゝが如き拍手の歡聲に迎へられて細迫書記長おもむろに壇上に姿を現はし拍手の鳴り止むを待つてわが結黨大會の第一聲の口を切つた「全國から集まつた親愛なる同志、代議員諸君！並に傍聽者諸君！これよりわれ等の新勞農黨の結黨大會を開會致します――」と嚴かに開會を宣言するや又拍手歡聲の嵐の如く起る「諸君、私は此の意義ある大會がかくの如く全國の各地方からの同志によつて待たれ又守られてゐる事を見るとき實に感慨無量であります。喜に堪えないのであります。（拍手）此の感慨、この喜は互に組み交した腕は死すとも離さじと雨、嵐の中を共に共に戰ひ進んだ者のみが感じ得るものであることを確信します。（拍手）だがこの喜は單に我々のみのものではありません。資本家や地主や右翼の幹部や小數の反對派の連中を除いては總ての勞働者農民無産市民は挙てわが新勞農黨の結黨の上に無限の喜びと希望とをあびせ掛けてゐるのであります（拍手）此の廣汎なる大衆から喜びと希望とをあびせられる者は又眞實、勞働者農民の利益を代表して戰ふもののみであることを確信してやまないのであります（拍手）殊に今や政府の金解禁及び緊縮政策は益々所謂産業の合理化に拍車をかけるものであり賃銀値下と解雇失業の嵐の下に勞働者はあへぎ、農民無産市民の生活は益々窮乏化して行きつゝあります。資本家階級に對して戰はねばならぬことは今日に始まつたことではないが然し今日ほど痛切にその必要の痛感せられることはまれであります。無産階級は斷乎としてそのために戰はなければならぬのであります。然しながら今日全無産階級の利益を代表して戰ふべき全責任はわが黨の上に負はされてゐるのであります。われわれは此の責任に直面し、この責任を痛感すればする程、われ等は只今と立つて現在の指導部を持つ左翼的な態度を續けてゐることが如何にわが黨の衰微を來すものであるかは同志諸君の既に身を以て體驗せられてゐる事と思ふのであります。我々にとつては今や我々がとつてゐる道は我々に殘された唯一無二の無産階級の陣營を見るに右翼中間派はその幹部の非階級的なるが故に眞に勞働者農民の利益のために戰ひ得ない。かくして眞に勞働者農民の利益の爲めに戰ひ得るものは左翼の包括的陣營たるわが陣營のみであります。即ちつた全國的な徹底たる組織を以て公然合法のものとして躍り出る必要を痛感するものであります。何となれば、我等がかつてとつてゐた勞農同盟の形態は徹底たる全國的組織をもたず、それ自身の指導部をもたずそれ自身としては動きのとれないものであつた。而して階級的な道である。かくして我等は今や確信に滿ちた新な第一歩を今日こゝに踏み出さうとしてゐるのであります。われ等はあくまで此の大會を光輝ある意義あるものたらしめねばならぬ。」と述べ來るや水を打つたような會場は又嵐の如き

滿場一致で
大山氏を議長に
場内の拍手鳴りも止まず

拍手にどよめく。ついでやまず細迫書記長の開會の辭終るや、一議長選擧に入つた會場では熱狂の

直に議長選擧に入つた處滿場一致で大山委員長を推戴。委員長やおら立ち上つて熱狂的な滿場たゞ嵐の如き拍手を浴ふや、副議長、書記長、書記の任命に移る。副議長には東京の上村進、北海道の木下源吾、

二君が、書記長には細迫兼光、書記には田部井健次、關島治郎、瀧川正雄、大内武男、高橋均、若干名の指名が推せんされ、異議なく可決、直に各種委員の任命に移り、資格審査委員……任命された。

大會傍聽者に對しては冷笑を以て迎へておもむろにつまみ出すべきことを注意し、「今日、われ等にとつてはこの結黨を見事にやり上げることが何よりも增した階級的事業である。お互に大膽に、細心に、戰鬪に意義あるわが大會を護りませう」と結べば又拍手なりもやまず

◇結黨式開會瞬間◇

北海道の太田留吉君、群馬の吉田鋼十郎君、兵庫の香山正男君新潟の稻村隆一君、東京の佐藤圭次郎君、岡中田徳勝君、大阪の小田孝君、奈良の松本常七君岡山の入江正志君、長野の山本虎雄君、愛知の佐々木眞一君、秋田の入江五郎君、靜岡の飯塚春君、神奈川の永井今朝太郎君同實勝金治君、東京の山花秀雄君、京都の早川忠孝君、千葉の石井宇一郎君、九州の中尾新一君

建議案委員會

新潟の野口傳兵衛君、東京の赤城壽仙君、同鈴木定正君、大阪の中根喜三郎君、神奈川の實勝金治君、京都の臼田英夫君、千葉の石井昇君、本部の石原寅行君

以上の委員の任命が終ると同時に東京の房前君が代議員歡迎の辭を述べ、それに對して北海道の木下源吾君と九州の石田樹心君とが答辭を述べた迎へるものも迎へられるものも互に固く腕をくんで苦難の鬪爭を共にして來た者のみだ。そこには、血盟の同志でなければ知ることのできない深い愛情と感激とが漲つてゐた。それを終つて、資格審査委員と議事案委員とは、各々別室に退いて委員會を開き一方では、地方情勢報告を始めた。先づ

第一に東京の北田君が東京地方の情勢を報告し、次に神戸の池田君が立つて情勢を述べ、約十分にして「中止」。直ちに古屋君が立つて、その後を續けて詳細に情勢を述べた。更に秋田の石田君、新潟の石田君が各々地方の

情勢を述べ、各地の大衆が如何に勞農黨の樹立をまち望んでゐるかを訴んだ。新潟の情勢報告が終る頃に議事案委員會も終つたので、地方情勢報告を一時中止して、委員會の報告に移る。委員會の決定通り滿場一致承認可決。更に資格審査委員の報告に移り委員長小田孝君が別項の通り報告、議場これを

拍手に承認。次いで、委員長は、各府縣の代表に對し、戰鬪の代議員數を質す。議長この時休憩を宣し、午前の議事を終る